

「蔵前理科教室ふしぎ不思議(略称くらりか)」が文部科学大臣表彰 科学技術賞を受賞

～ 受賞業績：「実験参加型寺子屋式出前理科教室による児童の理解増進」

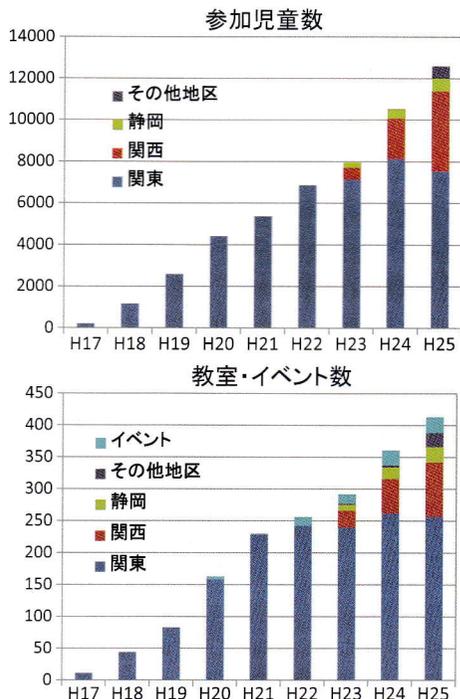
平成26年4月15日(火)文部科学省講堂において行われた平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰式において、10年にわたる“くらりか”の活動が評価され、文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞しました。当日は理解増進部門19団体を代表して庄山理事長が段に上がられ文部科学大臣から「おめでとうございます」との言葉と共に賞状並びに記念品の盾を受け取られました。

蔵前理科教室ふしぎ不思議“くらりか”は、平成17年(2005年)に蔵前技術士会のなかに公益事業を通じて社会貢献をする目的で設立されました。現在は(一社)蔵前工業会のなかの組織として、児童館や地域のコミュニティーハウス、小学校、中学校、或いはイベントなどで「寺子屋式出前理科教室」を実施しています。

その特徴は、児童に身近な材料を使った工作と実験を全員に行わせ、それに関する科学的な原理・法則や動作の仕組みなどをスライドで分かりやすく説明し、且つ、落ちこぼれて理科嫌いにならないように参加児童5～6名に1名指導者がついて懇切丁寧に指導する寺子屋方式の理科教室を行うことです。

“くらりか”会員数は平成25年度で、東京都20、神奈川県35、埼玉県21、千葉県14、静岡県7、愛知県1、長野県1、関西12、関西協力員24の合計135名で、14都府県で、年間388教室を開催、25イベントに参加し、年間参加児童数は1万2千人を超えるまでになりました。また結成以来、H

25年度末までに1,768教室を開催、79回の科学イベントに出展し、延べ5万1千人を超える児童が参加しました。“くらりか”発足以来の参加児童数と教室数の伸びは下図のようで、この“くらりか”の実績が評価されたものです。



【庄山理事長のコメント】

蔵前工業会で推進している“くらりか”が、理解増進部門で文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞致しましたことは、これまでの関係者のご努力と将来に向かっての小中学校の理科教育への支援の重要性が評価されたもので、大変有難く感謝申し上げます。本活動につきましても蔵前工業会として更なる努力を積み重ね、より理科好きな児童・生徒を増やし、科学技術創造立国に寄与したいと思っております。



なお、平成26年度科学技術分野の文部科学大臣賞には母校東京工業大学から下記の7名の方が受賞されています。

- 1) 科学技術賞・研究部門
 - 碓屋 隆雄 名誉教授 (S48修化工51博)
 - 腰原 伸也 大学院理工学研究科物質科学専攻 教授
- 2) 若手科学者賞
 - 杉山 将 大学院情報理工学研究科計算工学専攻 准教授 (H9情工11修計算13博)
 - 中戸川 仁 フロンティア研究機構 特任准教授
 - 米田 剛 大学院理工学研究科 テニユアトラック准教授
 - 小寺 哲夫 量子ナノエレクトロニクス研究センター 助教
 - 藤芳 暁 大学院理工学研究科物性物理学専攻 助教

未来を担う子供たちのために あなたの経験を活かして社会に恩返しを!! “くらりか” 会員募集のご案内

くらりか代表 山岸千丈
(S38化工40修H6博無機)

思いを同じくする仲間と共に、生き甲斐を感じながら、そして確かなやり甲斐のある仕事をしてみませんか。“理科離れ”ということが言われるようになって久しくなりますが、このことについての皆様の関心も高いことと思われまします。これに取り組んでみましょう。

この度の庄山理事長の文部科学大臣表彰科学技術賞受賞で、“くらりか”の活動は大変に有意義で重要なことが証明されました。“くらりか”は、今後更に会員を増やして社会の期待に応える体制を強化して行かなければなりません。貴方の参加を歓迎します。なお、“くらりか”は、企業や開催元等のご支援の他、東京工業大学からも支援を頂いておりますし、一般社団法人蔵前工業会の公益事業の大きな柱として活動しています。

子供の理科教育に携わる団体は数多くありますが、“くらりか”の特徴は以下の通りです。

- (1) 身近な材料で子供たち全員が教材を作り、実験を行う。「簡単」
- (2) 教材は持ち帰り家庭で子供が自分で再演できる。「安全」、「安心」
- (3) 実験の科学的な原理を説明する。「わかりやすく」、「親しみやすく」、「楽しく」



ある教室風景

“くらりか”の三つの特徴を支えるものは

- (1) テーマを開発し、説明用の資料を作成する。
- (2) 工作のための教材を“くらりか”メンバーが手作りで周到に準備する。
- (3) 一人の講師と複数のT A(助手)で対応し、生徒に達成感を与える。

具体的な活動の主なものは以下の通りです。

- (1) テーマ開発のための検討会を行う。
- (2) 教材の準備会をする。
- (3) 教室開催場所に講師あるいはT Aとして参加する。
- (4) 3ヶ月に1回の運営会議及び交流会に参加する。

会員仲間と語り合い、子供達と接して、貴方の経験と知識を活かすことにより、貴方自身を活性化することにもなりますし、生き甲斐となります。また将来的に理系を志向する子供が増大すれば、社会に貢献することができるとともに、母校への恩返しにもなります。

“くらりか”の活動の詳細は、“くらりか”のホームページ：<http://kurarika.net> 又は、一般社団法人蔵前工業会のホームページ：<http://www.kuramae.ne.jp>をご覧ください。

なお、趣旨にご賛同いただき、ご参加いただける方は、以下のアドレスにご連絡ください。

くらりか代表 山岸千丈：yamati@mx3.ttcn.ne.jp



マグデブルグの半球を楽しむ

滝久雄副理事長 (S38 機) より“くらりか”の業績に対し、一層の活動拡大のための資金として1,000万円をご寄付いただきました。どうも有り難うございました。